

高齢者のワクチン接種券

3月中旬から配布

新型コロナ

厚生労働省は二十五日、新型コロナウイルス感染症のワクチンについて自治体向けの説明会を開き、六十歳以上の高齢者に「接種券」を三月中旬以降に配り始め、接種開始から二回目

接種までを二カ月以内に終えるスケジュールを示した。五月中には一回目が終わり、二回目もかなり進んでいる計画だが、供給量や自治体の準備状況に左右されるため実現するかどうかも

は不透明だ。|| 新型コロナ

関連②⑧⑨⑬⑭⑯面、論説

⑩面

また政府関係者は、個人の接種実績を迅速に把握し、情報を自治体と共有するシステムを開発する方針も明らかにした。

政府は、新型コロナ患者の診療や搬送に関わる医療従事者らに続き、三月下旬から六十五歳以上の高齢者約三千六百万人に接種を始めることを目指している。

ファイザー製のワクチンは二十一日間空けて二回接種する必要がある。厚労省が示した接種計画案では、各自治体で六十五歳以上の

希望者への接種を一回目、二回目それぞれ九週間程度で終える体制づくりを目標として掲げた。二十一日間の間隔を考慮すると、順調にいけば十二週間で接種が一通り終わる。人口十万人、うち六十五歳以上の人が二万七千人いる地域だと週に六千回の接種をすると試算している。